

平成30年(2018年)
10月5日
第2715号
毎月5・15・25日発行

富山県

市町村新聞

E-Mail : info@shichoson-shimbun.jp

県・市町村監査委 合同研修会

県議会9月定例会は28日、本会議を再開し、県立特別支援学校の特別教室にエアコンを完備する費用、個人住宅でブロック塀を撤去・補強する費用を実質無利子で融資する制度などを

盛り込んだ109億9千万円の補正予算など36議案を可決し、閉会した。人事案件では、10月31日に任期満了となる県公書審査会委員12氏の任命に同意した。可決した意見書は3

4県では福井は1001、石川が1000の「平年並み」、新潟は98の「やや不良」で、富山が最も良かった。全国でも都道府県別の反収で多い方から6番目だった。同局によると、富山は品質を高めるため、他県より田植え期を遅らせた。穂を多く植える密植栽培が推進されたりしたこと

第30回県・市町村監査委員等合同研修会がこのほど、富山市の富山県市町村会館で開かれ、「地方自治体の内部統制と監査対応のポイント」と題し、日本マネジメント総合研究所合同会社理事長の戸村智憲氏の講演を聴いた。合同研修会には、県及び県内市町村の監査委員、事務局職員等約80名が参加した。

講演の要旨は次のとおり。1 監査の概要(1) 監査のあり方ということとを内部統制をかみ砕いて理解する、が本日のゴール。監査が感謝されることは少ない。現場には現場のプライドがあるので、「監査で言うことが正しいのだから聞きなさい」という対応は逆効果。法令等を振りかざして監査の正しさを押し付けると、監査への反感を招き、引いては、法令等の正しさまで嫌ってしまうよ

地方自治体の内部統制と 監査対応のポイント

うになる。これでは、監査が逆機能になる。監査の時だけ表面を取り繕う、面従腹背の現場になる。監査が、問題現場を生み出す要因になりかねない。監査をする側は、誰かを悪者にするのを目的にするものではない。

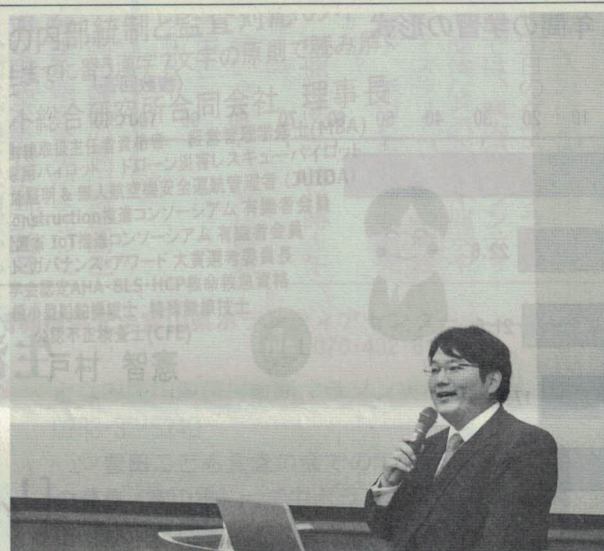
2 監査を理解してもらうために、監査のコミュニケーション上の工夫が必要である。現場から厄介者と理解されてしまうのは、監査をする側の対応の仕方にもある。現場から厄介者と理解されてしまうのは、監査をする側もされる側も同じ目線、同じ立ち位置で接していただきたい。現場の方々の心に刺さる接し方をしているか、これが監査の実効性を左右する。

3 論理的に正しいことを示す。単なる指摘だけの監査ではなく、改善案を導き出すコーチング型監査という手法がある。頭ごなしに否

定するのではなく、相手の話を傾聴し、相手が気づいていない答えを相手から導き出すものである。相手の自主性を活かし、相手の決断を後押しする。そうすることで、相手のやらされ感が解消される。

4 単なる指摘だけの監査ではなく、改善案を導き出すコーチング型監査という手法がある。頭ごなしに否

ではない。社会的常識からみておかしいことをしてはいけない。内部統制は、皆で作ったルールを皆で守り合うという仕組みである。法令違反のあるなしを場当たりにチェックすることではない。内部統制の本質は、「そもそも、問題が起こりにくい仕組みを構築すること」にある。もし問題が起こってしまったら、その問題の根源に遡ってチェックし



講師の戸村智憲氏

て、事後対応を適時適切に行うことが大事なポイントである。事件、事故、危機、不祥事、災害などが発生する前の対策を「リスク管理」と呼び、起こった後の対策を「危機管理」と呼ぶ。

5 内部統制とは何かという点、コンプライアンスに実効性を持たせる仕組みである。コンプライアンスとは、「法令順守+社会通念」であり、法令さえ守れば何をやってもいいというもの

9 内部統制「正直に」不正を正当確に(正確に)「正直に」(正確に)「資産の保人、カネ、続)の4つ

